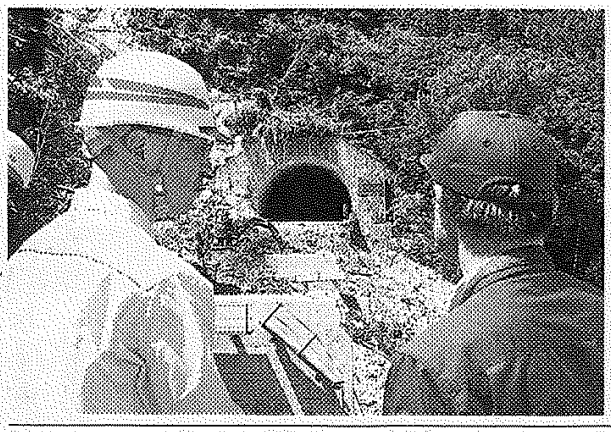
建設通信新聞
平成30年7月26日（木曜日）

あらゆる対策を

愛媛、高知の被災地視察

足立議員

18年7月豪雨



足立敏之参院議員は23、24の両日、2018年7月豪雨で被災した愛媛県と高知県の被災地を視察した。視察後、足立議員は「河川の破堤や氾濫、内水による浸水、土砂崩れ、土石流など、各地で被災状況はさまざまだ。地球温暖化による気候変動の深刻な影響と思われる。これまでに経験のない、こうした大災害が今後も発生することを想定し、あらゆる対策をしっかりと進め、災害の未然防止に努める必要がある」とコメントした。

23日は愛媛県と愛媛県建設業協会（本部、喜多・西予・宇和島地方・南宇和の4支部）の担当者が随行した。松山空港に到着後、大洲地区と西予市の乙亥会館周辺の被災地や野村ダムを視察した。また、宇和島市の白浦・吉田の両地区、愛南町一本松地区など、南予地区を精力的に巡視した。

24日は高知県建設業協会の担当者が随行した。大月町の橘浦地区の被災地を視察した後、NEXCO西日本の担当者と合流し、復旧作業が進む高知自動車道・立川橋（大豊町）の被災現場を視察した＝写真。

足立議員は、25日は岐阜県を視察、28、29日は京都北部・兵庫北部の被災地を視察する予定だ。